

社説

日本鐵道會社の改革と望む

日本鐵道會社の内情に付ては兼てより世間に種々の風説あり其風説は固より一々信す可きに非ざれども時々確實なる事件に徴すれば取締の不行届は争ふ可らず社内の内に六萬の大金を私消せしものあり二年も三年も無付かざりしとは既に不慮なるに況して相手は官廳にして幾年も其運賃を拂はずには居られぬ管なるに然るに會社の重役が其間に一點の疑を起さざりしとは返へすも不思議にして此一事にても社の内情を察するに足る其上に今回の同盟罷工の如き又その不取締を露するものと云ふ可し元來此事たる一朝突如として起りしに非ず不平の氣は數年前より機關方の間に萌し居たるものとて仲間の者より事情を述べて懸念したるものと異なるを知らず然るに會社に於ては馬耳東風に聞流して一向に取合はざるより疑回が事を起さんとして思ひ止まり此頃に至りていよいよ要求を容れざれば一同同盟罷工す可しと警告したれども尙は動かす可き氣色なきを見て遂に破裂したるものなりと云ふ左れば其警告は屢々會社員に耳に入り不穩の狀は其目に映じたるものとならん然るに少しも注意せず彼等能く何事かを爲さんと輕蔑して遂に此大事件を生じたるは會社の怠慢と云はざる可らず私設鐵道條例に旅客貨物輸送の際社員に依り損害を生じたるときは會社の賠償の責に任す可しとあり今回の事、果して其不注意より生じたるものとすれば會社の責任は實に重しと云ふ可し又同盟罷工の申請を聞けば素より不穩の舉動にして感服す可らず何と辨解するも脅迫の聲は免かれずと雖も更に裡面に就て其情實を視れば一概に無理として排斥す可らざるものあるが如し金銭は常人の重する所にして情給實與は雇人の生命なり少の損得にも烈しく感情を動かす可きは論を待たず給料増減の一事は當局者の最も注意す可き所なるに然るに會社が之を課長に一任したるは既に奇重なる其上に各課長の云ふがまに、或る課員の給料は大に増加しながら他の課員には少しく増給して其間に不公平を生じたるが如き不取締も亦甚だし同盟罷工の起る偶然に非ざるなり會社は種々の難ありしに拘はらず兼防の術を講ぜざりし點に於ても同雇人を過するに一方に厚く一方に薄くして不平の種を蒔きたる點に於ても共に其責を辭す可らずとして扱ふの始末は如何と云ふに聞かざるに據れば會社は全然其要求を容れて落着せしめたりと云ふ勢の已む可らざるが爲めか將た要求の至當なるを認めたるに由るか何れにしても會社の失敗にして其影響する所少々に非ず同盟罷工は恰も傳染病の如し而して機關方の取扱は全國各鐵道會社とも同一なれば今若し日本鐵道會社の同盟罷工が成功して其資格の上進と共に機關も亦増加したりと聞かば他會社の同職員にして等か心を動かさざる者あらんや官私の各鐵道とも早晩何かに就き同職員の不幸なきと期す可らず鐵道世界の一大家業と云ふ可し要するに日本鐵道會社は今回の事件に於ても不取締不行の實を示したるものにして此際断して刷新せざる可らず凡そ物久しければ則ち腐敗す

政府にても會社にても時々改革して新しき空氣を注入するも肝要なり例へば銘々の家にても掃除を怠れば臭も糞も塵芥も積りて大切なる道具が塵に埋没すれば無用の器物が飛出して邪魔に爲るなど種々の不都合を生ず可し日本鐵道會社の如きは多年煤持させざるものにして内部に種々の弊を生ず可きは固より其所なり社運の消長は獨り株主の利害に止まらず輿論地方の開發は此鐵道に待つ所多し今回の騒動を機として大改革を行はんと我輩の與々も希望する所なり

電報

西班牙米國間の危機

西班牙は米國に向けハヴ
アナ駐在米國總領事リ
將軍召喚の件及びキュー
パ嶋民と塗炭に救ふの資
を送るには戰艦を派出す
るよりも寧ろ商船を送ら
んことと要求し米國は目
下の形勢其要求を容れ難
しとて之を拒絶せり

露國の旅順口借入

露國は旅順口借地の件に
つき商議中あり

ソラー事件に
つき決闘

ヒヨール大佐とヘンリー大佐は巴里に於て刀剣を用
ひて決闘せり決闘の原因はドレーフニー事件に關す
る彼の小説家ソラーの密報にあり決闘の結果ヘン
リー大佐は前腕に負傷せり

米國西班牙將に
開戦せんとす

米國がキューバの叛徒を助けんとするは豫ての志望
にして西班牙新内閣の未だ成らざる當時駐西米國公使
をして米國は西班牙政府に開火に叛徒は何の時を以て
平定すべきやを以てし前内閣の倒れたるは殆ど全く其
答辭に苦しむが爲めなりと云ふが如き有様なりし斯く
て新たに成立せるサガスタ氏の自由黨内閣は元フリ
ツの太守たりしプランコ將軍をキューバの太守とし
同太守は同職に自治を許す旨宣言したるを以て米國
は暫く新太守の手際を見然る上に何分の動作を試み
んとするに決したり其事は既に米國大統領マッキン
レ氏の其議會に與へたる教書に依りて見るべきなり然
るに其後の形勢に見るに西班牙は叛徒の鎮壓に頗る苦
しむの態あり是は米國新聞の故造なるやも測られぬ

現に本紙の報じたる如くプランコ將軍は失墜して五月
迄には歸國の志ありとの説まで傳へられたり其間に於
てバグアナ駐在の米國總領事リ氏はキューバ嶋に於
ける西班牙人の手に成る機文を得たるやにて其機文に
は西班牙人の徒黨相合してキューバ嶋に於ける米人の
住地を襲はんとするの狀を示したりと云ふ是を以てリ
氏は本國に向け軍艦の回送を請求し本國の之に應じ
て發遣したるもの二十九日の本紙に見えたるが如く
キューバ島(八二〇〇噸甲裝洋艦)インヂアナ(一
〇二八噸砲艦)マサチューセツツ(同上)アイオワ
(一四一噸同上)テキサス(六三二噸巡洋艦)モン
ガモリー(二〇〇噸巡洋艦)デトロイト(同上)及びメ
イン(六八八噸巡洋艦)外に水雷艦等なりし艦分多數
の軍艦を派遣したるものと云ふべし斯くて幾何ならず
其メイン艦は爆發し其之を善理したる結果は決して偶
然の出來事ならざるを證明したりと云ふ之を聞いて
紐育取引所の恐慌を感じたるは或は西班牙人の謀つて
燃せしめたるにはあらずやと其當時の本紙報外に
記したる如くなりし而して之と同時に米國に於て駐米
西班牙公使デ・ローム氏の私營なるもの報かれ審中に
は甚しく米國大統領を非難したるの言辭ありたるやに
て太く米國の惡感情を招きたり昨日の本紙に報じたる
米國宣戰を布告せりとの風説は實に此邊に胚胎し來り
たるものにあらずやと思はれたり然るに本報外を以て
報ずるロイタル電報には西班牙政府リ氏の召喚を米
國に要求し之と共に軍艦に代ふるに商船を以てせよと
云ひたりと云ふ要するに此言たるは一はリ氏の政策西
班牙の憚る所なるを以て之を排せんと欲し一は言辭を
檢閲にして軍艦の派遣を要めたるものならん西班牙の
舉動真に大膽と云ふべきなり是れ殆ど米國に對する西
班牙のアルメタムと云ふも可ならずや米國宣戰布告
の風説其信偽未だ知るべからずと雖も彼果して如何
なる所置に出づべきや兎に角西班牙の要求は之を拒絶
したりと云ふ拒絶されたる西班牙は又果して如何の態
度に出づべきや形勢頗る危急なりと認めれば取り敢
へず本報は報外を以て之を報ずるものとせり

露國の旅順要求

露國が旅順口の借入れを清國政府に申込みたる事は北
京特電に依り既に本紙に報載せしが尙ほ別項の通り
ロイタル電報も同様の事實を報載し來りたるのみなら
ず去る六日其前へも公報ありたる由は遼東圖は單に一
時の軍艦發着を以て同港を借入れたるのみならず是れ
より又外交界の一大問題たる可し左れば英國は露國が
同港を占有したる上は之を開放す可しとの條件にて露
國に對して居るの姿なれば列國中此問題に對して故諒を
申入るゝものある可きや否や頗る疑はしく露國の最も
畏懼する所は我日本の外なる可しと云ふ

犯罪の美術 (四十一)

「オ、五百萬、貴族のふ又時かれたさうだ、眞成
にやうがなないやないか。」
「旦那、どうも申し譯が御座えやせん。あの野郎、貴
族も、彼方へ行き此方へ行きやがって、さう
く時きやがつたんでけす、思えましくつて、さ
やうがねえんで。なに、私少し乗り換れたんでけ
さるそれが旦那、聞いてくれなせえ。いま出るで

犯罪の美術 (四十一)

「氣せりや、がつたんでけす
なかつたんでけす
らねえ、野郎、
畜生でさア。」
「好しく、もう
に往つて居る。
何處に往つたん
五百萬は盡し、
村の斯くしばし
くは、その心算
實なる必要の存
き難物たるを、
不届なる所存を、
直に、その行術を
今朝は私宅にあ
彼の寶石につき、
大谷に得たる寶石
せり。我は、實に
を、斯く盜竊品に
て見れば、野郎の
以て、彼は賭の



FUJICRO SAFETY